

そのなかで、内田賢徳氏は

「九日後朝」は九月九日の重陽の節の宴のあとの詩宴。(中略)「後朝」を翌日や後日の意に用いるのは、わが国の漢詩文に独特で、中でも賜宴の後日の宴を指すことが多い。(中略)。「朝朝」は毎日の意。「後朝秋」は、重陽の後の秋の日を一般的に云うか。後朝の宴のあった九月十日の一日のみを指すのではない。後朝の宴での心地よい酔いをこの秋ずっと毎日続けようと、酔興を披瀝する。

と説明する。(『田氏家集注 卷之下』小島憲之監修)。

紀長谷雄の「69 九日後朝侍宴朱雀院、同賦秋思入寒松、應太上皇製」にも「酷嗜於秋池之浦、近到於無何之郷、臣等 屬黃花之後朝」の句が見える。

○密 ……したしいさま。ここでは、「私的な」の意味。

175 ○器 ……才能。度量。

○拙 ……にぶく下手なさま。

○豊澤 ……ゆたかなうるおい。

『漢語大詞典』には「①豊沛の雨水」「②豊厚的徳澤」と説明し、『晋書』「樂志上」の「元首聰明、股肱忠、樹豊澤、揚清風」の用例および、顔延之の「和謝靈運」の「皇聖昭天徳、豊澤振沈泥」の句を引く。

176 ○頑 ……かたくな。おろか。まぬけなさま。

○巨川 ……大きな川。

『書経』の「説命上」に「若濟巨川、用汝作舟楫」の用例が見える。